

授業だより No. 4

押水第一小学校

令和6年 9月 19日

6年研究授業 道徳「心をつなぐ音色 ピアニスト 辻井伸行」

(授業者 茶木)

9月10日(火)に6年道徳「心をつなぐ音色」の研究授業を行いました。授業後には、授業整理会、中能登教育事務所の品川指導主事からの指導助言がありました。

【授業の様子】



【指導助言～品川指導主事より～】

もっと負荷をかける

- もっとハードルの高い難しい発問を入れる。
ふりかえりの場面の「どんな自分になりたいか」だと児童らはすぐに書けそうなので、もっと深いものにする。
- 展開部分の発問例
「困難を乗り越えるにはどんなことが大切なのか」
「ピアノの先生からあきらめた方がいいといわれても、なぜそんなに頑張れたのか」
「その原動力は何だったのか」
なりたい自分→「のぶ君はピアノでどんなことを実現したかったのだろうか」等、深める発問を考えておくとよい。

課題意識の喚起

- もし自分がのぶ君の立場だったらと自分事として考えさせる。
例 「あんなにがんばったショパンコンクール二次予選がダメだった後、自分ならもっと頑張れるのか」と見つめさせるとよい。頭ではわかっているが本当にできるのか。
- 導入からもっと自分事として考えさせ、もっと交流させておくと、ふり返りで考えやすい。